

## アジア7カ国の大学生84名が集い、フィールドワークを通じ生物多様性について学びます **第5回「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」を日本にて開催**

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也、以下 当財団）は、8月3日（水）より6日間、第5回 アジア学生交流環境フォーラム（Asian Students Environment Platform [ASEP]）を日本にて開催します。

ASEPは、グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的に、当財団が2012年より開催している環境教育活動です。本年度は「生物多様性と叡智」と題し、中国、韓国、ベトナム、マレーシア、カンボジア、インドネシア、そして日本と合計7カ国の大学生84名を招き、東京・千葉・北海道を舞台に開催します。異なる自然環境や歴史・文化・価値観を持つ学生たちが、フィールドワークを通して生物多様性と人間の関わりについて学び、意見を交換します。

学生たちは、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の世界自然遺産に登録されている知床半島を訪れ、餌付けされることなく人間と共存しているヒグマの観察や、絶滅危惧種に指定されているシマフクロウの保護活動の見学、生態系について学ぶフィールドワークを行います。北海道川上郡標茶町虹別では、シマフクロウを守る森づくりのため、地域に自生する苗木を植えるほか、現代に伝わるアイヌ文化に触れることにより自然との共生観について学びます。またエコストアであるイオン店舗を視察することで、イオンにおける環境への取り組みを学び、観光と環境保全、野生の感性と人間の叡智の調和についての理解を深めます。

当財団はこれからも、いのちあふれる美しい自然を未来の子どもたちに引き継ぐため、植樹活動をはじめとする環境保全活動に積極的に取り組んでまいります。

### 記

- 開催日程： 8月3日（水）～8月8日（月）
- 開催場所： 東京、千葉、北海道
- 主催： 公益財団法人イオン環境財団
- 協力： 早稲田大学
- 参加校： 王立プノンペン大学（カンボジア）、清華大学（中国）、  
（国名アルファベット順）インドネシア大学（インドネシア）、早稲田大学（日本）、高麗大学校（韓国）、マラヤ大学（マレーシア）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム） 計84名
- 後援： 毎日新聞社、中国青年報社、朝鮮日報社、トイチェ社
- 開・閉講式の主な出席者： 早稲田大学 総長 鎌田 薫 様  
（予定） 早稲田大学 副総長 橋本 周司 様  
公益財団法人イオン環境財団 理事長  
イオン株式会社 名誉会長相談役 岡田 卓也  
公益財団法人イオン環境財団 評議員  
イオン株式会社 代表執行役社長グループCEO 岡田 元也
- プログラム： 8月3日（水） 開講式（早稲田大学 小野記念講堂）  
8月4日（木） 専門家による講義、ヒグマ生態観察（知床）  
8月5日（金） 知床五湖野生動植物観察（知床）  
専門家による講義、フィールドワーク、シマフクロウ餌場観察等（虹別）  
8月6日（土） 植樹活動、フィールドワーク（虹別）、専門家による講義（釧路）  
8月7日（日） イオンの環境への取り組みについて学習（イオンモール幕張新都心）  
8月8日（月） 成果発表・閉講式（幕張）

## ご参考

### <2012年～2015年 ASEPの活動について>



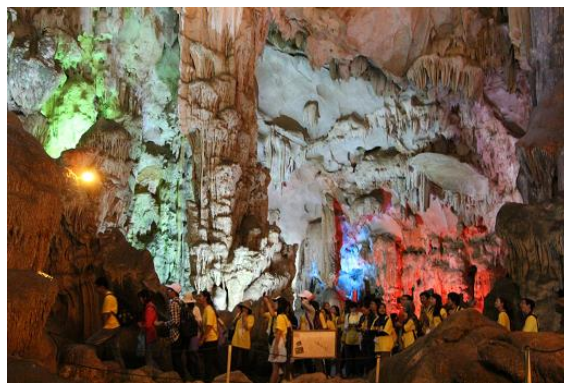
第1回 ASEP2012(日本開催)  
テーマ:「文化から環境を考える」  
中国、日本、韓国の3カ国60名が参加



第2回 ASEP2013(韓国開催)  
テーマ:「環境と人間」  
中国、日本、韓国、ベトナムの4カ国79名が参加



第3回 ASEP2014(中国開催)  
テーマ:「水と人」  
中国、日本、韓国、マレーシア、ベトナムの5カ国80名が参加



第4回 ASEP2015(ベトナム開催)  
テーマ:「生物多様性と人」  
カンボジア、中国、日本、韓国、マレーシア、ベトナムの6カ国72名が参加

### <北海道における当財団の植樹活動について>

#### ■2002年～2006年 北海道 知床植樹

北海道斜里郡斜里町は1977年、乱開発の危機にさらされていた知床の開拓跡地を買い取り、植樹して緑を回復させることを目標に「しれとこ100平方メートル運動」を全国に呼びかけてきました。当財団はこの運動に賛同し、2002年から2006年までの5年間で、のべ1,610名の皆さまと累計9,003本を植樹しました。また2004年には、かつて知床の原生林に数多く生息し、現在絶滅の危惧にあるシマフクロウが棲む森を再生するために、イオンがクリスマスラッピングキャンペーン「シマフクロウに森を返そう！」募金キャンペーンを実施し、お客さまからの募金と当財団からの1,000万円の拠出をあわせた総額1,920万8,134円を財団法人知床財団に贈呈しました。2005年には「世界自然遺産 知床の森をまもろう！」キャンペーンでお預かりしたお客さまからの募金に当財団からの1,000万円の拠出をあわせ、総額2,187万1,917円を斜里町知床国立公園内森林保全基金に贈呈しました。

#### ■2007年～2011年 北海道 支笏湖植樹

2004年9月8日、日本海沿岸を北上した台風18号は、北海道を暴風域に巻き込み、道内各地の森をなぎ倒しました。国有林が多くを占める樽前山麓の森林被害は、平坦林で火山灰地という土地柄もあって道内最大規模となりました。この地を命はぐくむ森に再生すべく、5年間で、のべ5,203名の皆さまと累計39,600本を植樹しました。

#### ■ 2012年～2014年 北海道 むかわ町植樹

森林が約8割を占めるむかわ町は、豊かな自然を利用した農林水産業が主な産業であり、森・川・海のつながりを活かしたまちづくりを目指しています。近年、山間部の森林荒廃が進んでいることから、「魚つきの森を守ろう」というコンセプトのもと、森を守ることで、川を守り、そして海を守るべく、3年間でのべ1,735名の皆さまと累計16,000本を植樹しました。

#### ■ 2015年～2017年（予定） 北海道 厚真町植樹

北海道南部に位置する厚真町は、町内の7割に森林が広がる緑豊かな町であり、中央部を流れる厚真川を中心に美しい田園風景が広がっています。植樹地である厚真川上流部周辺にあるレジャー施設の跡地は、表土が荒廃し、水資源を蓄え生物を育む土壌の水源涵養機能が低下しています。厚真町と当財団は、産業や暮らしを支える森の回復を目指して、2015年より3年計画で植樹活動をスタートしました。3年間で17,400本の植樹を目指します。昨年と今年（7月2日実施）の2回の植樹で、のべ1,132名の皆さまと11,400本を植樹しました。

#### <生物多様性への取り組みについて>

##### ■ 「The MIDORI Prize for Biodiversity（生物多様性みどり賞）」（国際賞）

「国際生物多様性年」である2010年、当財団が同年に20周年を迎えたことも記念し、「The MIDORI Prize for Biodiversity（生物多様性みどり賞）」を創設しました。当賞は、生物多様性の保全と持続可能な利用等に関し、世界、地域または地方レベルで顕著に貢献している個人を顕彰しています。また、すぐれた業績を紹介することで、生物多様性に関する積極的な活動を支援し、人々の認識を高めることを目的としています。今年度は12月に生物多様性条約第13回締約国会議（COP13）開催に合わせ、メキシコ カンクンで授賞式を実施する予定です。

##### ■ 「生物多様性日本アワード」（国内賞）

2010年に生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催されることを契機に、前年2009年に生物多様性の保全とその持続可能な利用を推進することを目的に創設しました。日本国内に在住する団体・組織・企業・個人の優れた取り組みを顕彰しています。

※国際賞と国内賞を、交互に隔年で実施しています。